

# 親子で一緒に考えよう！身の周りの安全と危険。

子どもが巻き込まれる犯罪や事件が多発し、子どもの安全についての関心が高まっています。では実際、どんなことが危険につながるのか、どうやって自分の身を守ればいいのか、ぜひ親子で一緒に考えてみましょう。

子ども自身に危険を避ける力をつけ、不審な行動がしにくい地域コミュニティーを作りましょう。



岡山市宇野小学校 PTA 会長 太田直宏さん

「危険」「安全」とは何なのか、まず知ることが大切です。

「我が子を危険から守りたい」というのは、親ならば誰もが願うことです。ただ、「口に「危険」と言っても、それは必ずしも犯罪に関わることは限りません。「防犯」だけが我が子の安全を守ることに必要な方法です。まず大切なのは、子ども自身が危険な場所や危険を避けるための方法を知ることです。自動車や自転車がひんばりに通る道を歩くときは何に注意するのか、知らない人に声を掛けられたらどうするか、子ども自身が、自分の身の周りにおける安全や危険について知り、身を守るための力を身につけることが欠かせません。

最近防犯ブザーを始め、GPS付きの携帯電話など、子どもの安全のためにさまざまなサービスが生まれています。このようなものは確かに役に立ちますが、持つだけでは絶対に犯罪に巻き込まれないかと言え、そうではありません。「携帯を持たせていれば大丈夫」などと、このようなサービスに頼ってしまう時代の空気感には、大変危うさを感じます。

不審者を見つけたしええれば安全が守れると

**防犯の合言葉は「イカのおすし」**

※警視庁が考えた、子供が危機にあわないようにするための標語。こうした防犯の知識を教えることも大事です。

- イカ** 行かない(知らない人について行かない)
- の** 乗らない(知らない人の車に乗らない)  
※知っている人でも前もって約束していない場合は、ついていかない、車に乗らない。
- お** 大声を上げる(「助けて!」と大きな声を出す)
- す** すぐ逃げる(こわかったら大人がいる方にすぐ逃げる)
- し** 知らせる(どんな人が何をしたかくわしく知らせる)

## 親子で地域の安全を確認! 地域安全マップを作ろう。

子ども自身が自分で身を守るためには、どんな場所がどうして危険なのか、どこが安全なのかを知り、危険を避ける力を身につける必要があります。それには『地域安全マップ』を作ることが有効だとされています。「家の周りは、どうなっているのかな?」と親子で危険な場所を一緒にチェックし、「こんなときはどうする?」と話し合ってみましょう。

### ●地域安全マップの作り方

- ① まず、模造紙などの大きめの紙に、家や通学路などの周囲の道の地図を簡単に書く。公園や図書館など、目印になる場所や建物を書き込む。
- ② 持ち歩き用にコピーした、市販の地域の地図を見ながら、自分で書いた地図の地域を親子で歩く。危険な場所や逃げ込めそうな場所を見つけたら、注意点をメモしておく。写真も撮っておくと、あとで分かりやすい。
- ③ 家に帰ったら、書いた地図に注意点を書き込む。写真を貼ってもOK。

**注意**

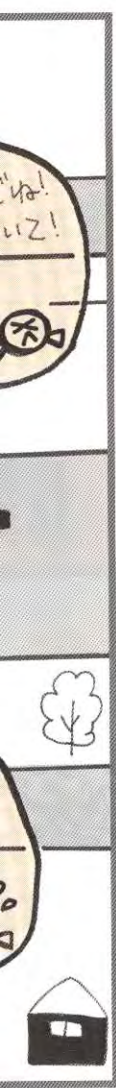
- ・地域を歩くときは、「ここで知らない人に声を掛けられたら、どこに逃げる?」などと、子どもと話をしながら、いろいろ考えさせてみるといいでしょう。
- ・子どもがかくれんぼに使う場所は、「人が隠れやすい場所」と考えてチェックしましょう。
- ・「不審者が出た」とか「犯罪があった」場所を特定することが目的ではなく、危険な場所の判断基準(「入りやすい」と「見えにくい」)に照らして、「ここは危ない」と子どもが気づくことが重要です。

- 危険な場所とは?  
誰もが「入りやすい場所」で、周りから「見えにくい場所」が危険なところ。
  - 入りやすく見えにくい危険な場所
    - 人通りが少ない場所
    - 街灯が少ない暗い道
    - 路上駐車が多き道
    - 荒れた空き家やお店
    - 人のいない駐車場や駐輪場
    - 落書きがあったり、ゴミが散らばっている場所
    - 木が茂って、見通しが悪い公園
    - 「チカン注意」などの看板がある場所 など
  - 逃げ込める安全な場所
    - 『子ども110番の家』
    - コンビニ、ファミレスなどのお店
    - 交番、消防署、病院、郵便局など
    - 学校や塾
    - 友達や知り合いの家 など
  - 危険を避けるために必要な力とは?
    - ①何が起きるかを予測する想像力
    - ②どうすればよいか考える判断力
    - ③すぐ行動する瞬発力 など



「どこかに悪いことをしている人はいないか」という「監視社会」を生み出しかねません。大切なのは、例え不審者がいたとしても、その人が不審な行動をとりだすような状況や地域コミュニティー

落書き(不審な行動)がしにくくなるでしょう。またお子さんは、地域の中で出会う人にあいさつをしていますか? 登校や登園時に、黄色いジャンパーを着たり緑の旗を持ったりして立っている人



## 子どものための交通安全アドバイス

子どもの安全と言えば、**欠かせないのが「交通安全」**。  
子どもは何か夢中になると、**つい飛び出したり車道を歩いたり**してしまうもの。

事故から身を守るには**どうすればいいのか考えてみましょう。**

### ① 車が来たら『かべピタ』!

交通事故の大敵は、やっぱり車。歩道のない道で車が来たときは、壁にピタッとくっついて車が通りすぎるのを待ちましょう。



### ② 車から遠いところを歩く!

歩道があっても、車道側の端っこを歩いていてカバンを引っかけられる…なんてこともあり得ます。お母さんと一緒に歩くときは手をつないで、もちろんお母さんが車道側を。

### ③ 背中に目はない、後ろに注意!

後ろから来た車や自転車は見えません。フラフラ蛇行歩きをせず、道路の同じ側をまっすぐ歩きましょう。後ろ向きに歩いたりすると、溝や用水路に落ちるかも!



### ④ 歩道の横にも道がある!

子どもの目にはずっと歩道が続くように見えても、途中で横道があって車や自転車が出てくることも。道があったら、左右の確認を忘れずに!

### ⑤ 「右見て左見て、もう一度右!」

車の通る道を渡るときは、たとえ横断歩道があっても、必ず左右を確認してから手を上げて!身長の小さい子どもは、運転者からは見えにくいのです。

### ⑥ 暗い道は通らない!

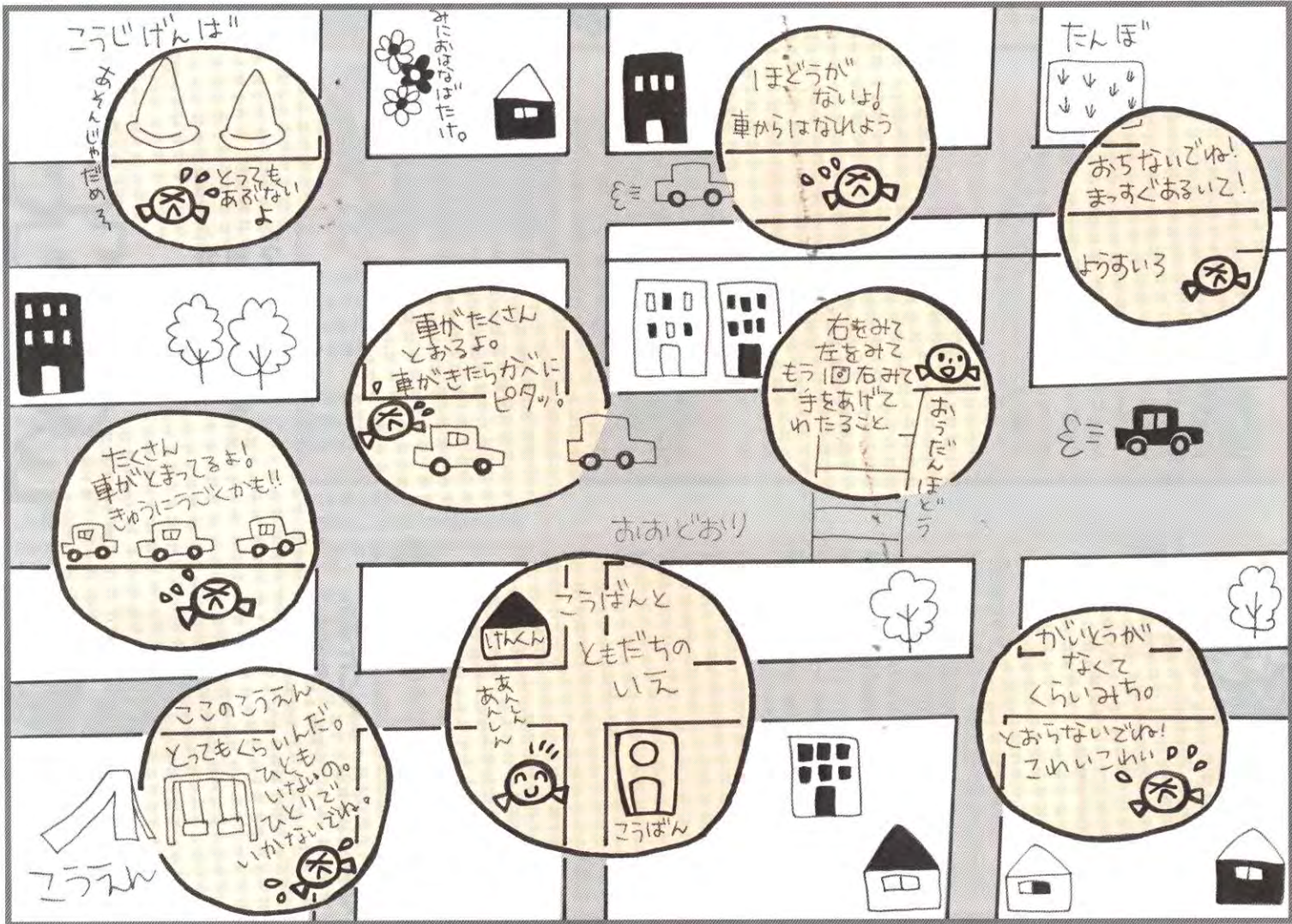
冬になると日が暮れるのも早く、いつもの道が暗い道になることも。暗い道では、人がいることが自転車や車から見えにくいもの。明るいうちに帰ろうね。

「どこかに悪いことをしている人はいないか」という「監視社会」を生み出しかねません。大切なのは、例え不審者がいたとしても、その人が不審な行動を取りつらくなるような地域「ミニミニ」を作り上げることです。

例えば宇野小学校区では、宇野小PTAが中心になって地域に働きかけ、落書きの調査・消去活動を行いました。これは「落書きができる場所は地域の死角であり、不気味な場所なんだ」という発想から、「そんな地域の死角をなくすための第一歩として、まず落書きを消そう」という活動です。「ここに落書きがあるって地域が知っているよ」、「悪いことは誰かが見ているよ」というメッセージに示されて

落書き(不審な行動)がしにくくなるでしょう。またお子さんは、地域の中で出会う人にあいさつをしていますか? 登校や登園時に、黄色いジャンパーを着たり緑の旗を持ったりして立っている人たちをよく見かけますよね。宇野小学校区では「うの子パトロール」と言うのですが、町内会や老人会の方が、子どもたちの安全を見守ってくれています。地域にどんな子どもがいるのかを知り、地域の子どもを地域で守ろうという思いから出た地域ぐるみの活動なのです。

「おはようございます。きょうもありがとうございます」と、ぜひあいさつをしましょう。帰り道で出会った地域の人にも、「こんにちは。帰りました」とあいさつをする。それが、「地域の中にこんな子どもがいる」ということを知らせ、結果的に我が子の安全を守ることにもつながっていくのです。



## 防犯のイカ

※警視庁が考案に  
機にあわな  
の標語。こうし  
を教えることも

## 親子で

子ども自身  
のを知り  
を作ること  
危険な場所

## 地域

① ま  
大きめ  
踏など  
を簡単  
書館な  
所や建

・地域  
ども  
・子  
・不  
の半  
気

## 危険な

- 危険な場所が危
- 入りや
- 人通り
- 街灯が
- 路上駐
- 荒れた
- 人のい
- 落書き
- 木が茂
- 「チカ